

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日

株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
------------------------	---------------

同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL:0120-094-777(通話料無料)
------	--

公告の方法	当社は以下のURLで電子公告を行います。 http://www.shizuki.co.jp/ ※事故その他のやむをえない事由により、電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
-------	---

上場証券取引所	東京証券取引所 市場第2部 大阪証券取引所 市場第2部
---------	--------------------------------

【ご注意】

- 株券電子化に伴い、株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

『指月(シヅキ)』社名の由来

『指月』の社名は、創業者山本重雄が長州(現在の山口県)の出身であること、また幕末長州藩の一代家老として藩政改革で功を成した村田清風が先祖にあたることから、毛利家歴代の居城である萩城(指月城)から名をお借りしたので命名の由来です。



株式会社 指月電機製作所

本社 〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号
TEL:0798-74-5821 FAX:0798-73-0807



第82期 第2四半期報告書

株主通信

平成21年4月1日～平成21年9月30日



株式会社 指月電機製作所

<http://www.shizuki.co.jp/>

証券コード 6994
東証二部・大証二部

研究開発部門を強化し、インバータ化の流れに対応します。

インバータ化が進む中、存在感を発揮

第1四半期から第2四半期の動きを振り返ってみると、依然厳しい状況にはあるものの自動車関連がハイブリッドカーを中心に立ち直ってきました。エコカー減税など政府の施策が効果を発揮しているという一過性の部分もあるため、もろ手を挙げて喜ぶわけにはいきませんが、当社にとっては好材料と言えます。

また、電鉄車両用の産業装置用大型インバータが伸長しています。これは中国市場において、従来のディーゼル車両からインバータを搭載した先進車両への切り替えが進んでいることが大きく影響しています。

こうしたインバータ化の流れは、何も中国に限った話でも、電鉄車両の分野に限った話でもありません。国内においても家電製品はもちろん、船舶やフォークリフト、鉄鋼用の圧延機などありとあらゆるもののインバータ化が進んでいます。先だって政府が温室効果ガスの1990年比25%削減を表明したこともあり、

エコロジーを目的としたインバータ化の流れは今後ますます加速するはずで。当社としても、そこに大きなビジネスチャンスが広がっていると考えています。

開発シフト化を推進し、選ばれる企業へ

去る9月に九州指月の研究開発棟が完成しましたが、これもこうした多様化する電力変換の要望にお応えするためのものです。この施設が完成したことで、お客さまが当社の商品を実際にお使いになる状態で評価試験を行うことが可能となり、よりお客さまに近い立場で商品開発できるようになりました。

今後は新中長期計画のAIM2013でも掲げているように固有技術のプロ集団化に取り組み、グループ全体の社員数を増やすことなく、技術者の数を現在の248名から300名にまで増員したいと考えています。こうして企業全体の開発シフト化を推し進め、これまで以上に上流工程からお客さ

まの新商品開発に携わり、市場激変の時代でも継続的に選んでいただける企業への成長を目指します。

一方で、生産体制は一層合理化していきます。本来、多量生産は自動化しやすく、変種変量の生産は自動化しにくいものですが、当社は「人の目を持つロボット」を内製することで、変種変量の生産でも機械で対応できるよう改革に取り組んでいます。今、産みの苦しみを実感していますが、この取り組みは1年先、2年先には大きな成果を発揮するに違いありません。

まだまだ世界経済は不透明ですが、中国の後漢書にある「疾風に勁草を知る」という言葉のとおり、こういう厳しい状況の時こそ本当に強い草、つまり本当に強い企業が生き残るのだと思います。そのためにまずはしっかりと根を張ることを考えながら企業価値を高めていきます。

株主の皆さまには、引き続きご支援いただけますようお願い申し上げます。

代表執行役社長 梶川 泰彦

AIM2013

シヅキが目指す2013年度のあるべき姿

全売上高

270億円

総資産経常利益率(ROA)

14%

営業利益

32億円

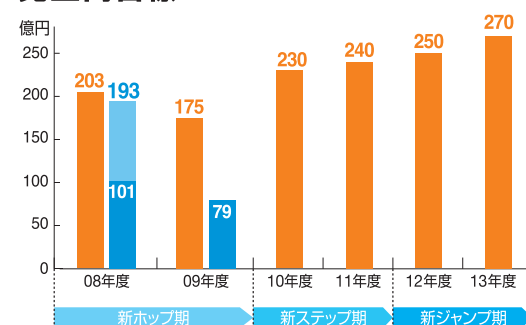
一株当たり利益(EPS)

60.9円

AIM2013を目指した経営戦略

- ▶ 対応型から提案・ソリューション型企业への革新
- ▶ 重点事業領域(ドメイン)の拡大
- ▶ 事業活動の最適化(JISの展開)
- ▶ 共育と訓練(指月PPVSの展開)
- ▶ 固有技術のプロ集団化(研究・開発の環境整備)

売上高目標



経営指標

項目	単位	新ホップ期		新ステップ期		新ジャンプ期	
		08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度
営業利益	億円	13.6	10.0	24.2	26.4	28.8	32.4
総資産経常利益率(ROA)	%	6.9	5.3	11.6	11.9	12.7	14.1
一株当たり利益(EPS)	円	28.3	21.0	46.3	50.1	54.0	60.9

実績 | 見込み | 計画

今やあらゆる分野において欠かせないテクノロジー——

インバータって何だろう？



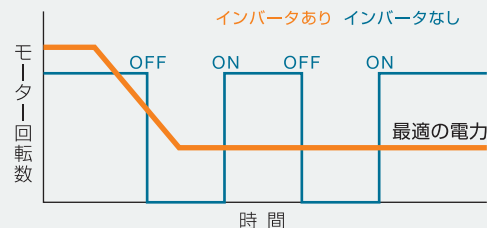
なるほど
シツキの
技術力！

インバータというと、まずエアコンや冷蔵庫、蛍光灯といった家電製品が思い浮かぶのでは？
でも、実はインバータ化の波は広く産業分野にまで及んでいます。

ポイント！

インバータとシツキのコンデンサの関係

インバータはモーターに流す交流電流の周波数を連続的に変更し、モーターの回転数を使用状況にあわせて微調整することで省エネを可能にします。そして、このインバータには電気の乱れを抑えるシツキのコンデンサが欠かせないのです。



インバータを搭載する流れが産業界にも！

今や、モーターが存在するところに必ずインバータの存在があるといっても過言ではありません。
もちろんシツキが得意とする分野にも波及しています。

電鉄関係



最新型の新幹線車両N700系のインバータ回路に当社の車両用モールドコンデンサが採用されています。



鉄道変電所へ、電気の品質改善や省エネ、力率改善を目的とした装置を納入しています。

船舶関係



船の向きに合わせて、各所に設けたスクリューの動作をインバータでコントロールすることで船体を安定させます。

鉄鋼関係



溶解・鋳造された鋳塊を製品化するまでの重要な工程を担う圧延機もインバータ化することで省エネを実現します。

こうした産業分野のインバータ化に貢献するため、大型コンデンサの製造を手掛ける九州指月に研究開発棟が完成。今後、ますます高まるニーズに応えていきます。



TOPICS

TOPICS #01

新商品づくり、そして人づくりを手掛ける拠点として 九州指月研究開発棟完成



九州指月
研究開発棟

九州指月の研究開発棟が9月に完成。これにより、主に家電機器用のコンデンサ・モジュールの製造を手掛ける秋田指月に続き、新幹線などに使われる大型コンデンサ・モジュールの製造を手掛ける九州指月でもお客様の実使用環境に合わせた各種評価を行うことができるようになりました。

延床面積3,800m²という広大なスペースを活用し、振動試験機やX線CT、電子顕微鏡といった最新鋭の試験

装置や、分析機器を数多く設置。さらに、コンデンサが実際に搭載されている機器を導入し、お客さまと一体となって実使用環境での評価試験を行うなど、これまでにない形での共同研究、共同開発が可能となります。

既に車両用コンデンサの小型軽量化を目的とした開発をスタート。今後、高速化が進む海外市場向け車両への適用も推進していきます。

また、建物は採光性に優れ、照明や空調の省エネなど環境面を考慮しています。食堂やロッカールームなど福利厚生も改善。社員のモチベーション向上にも寄与しています。

今後は、この恵まれた環境を活かして技術者の育成にも注力。優れた人材の育成、高度な技術の蓄積で、これからもお客さまの期待に応えてまいります。



竣工式



研究・開発フロア

TOPICS #02

国内・海外から引く手あまた

秋田指月研究開発棟、成果続々

秋田指月の研究開発棟で開発したインバータ平滑用コンデンサが、国内・海外問わず、新規の引き合いにつながっています。ハイブリッドカーのパワエレ用コンデンサ・モジュールで培った実績をさまざまな用途に展開すべく、現在も研究を続けています。



秋田指月研究開発棟

事業概要と展望

当第2四半期連結会計期間における国内・海外の経済は、各国政府の緊急経済対策の効果により、消費財を中心とした一部市場において景気の回復傾向が見られました。しかし、依然として企業業績の低迷による、設備投資の抑制などが続き、当社グループにおいても厳しい経営環境が継続しました。

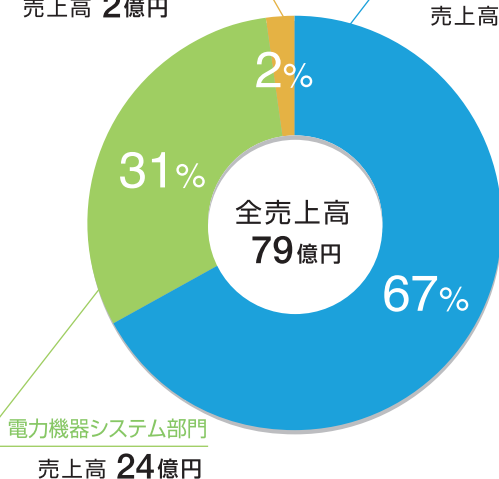
一方で、環境共生、省エネ、新エネルギーの活用、鉄道インフラの整備など、世界的にますます加速している市場もあります。

当社グループは環境の変化に機敏に対応し、新市場・新商品の開発・拡販活動を活発化させ、引き続き原価低減活動及び経費削減活動に取り組んでまいります。株主の皆様にはますますのご支援、ご鞭撻を頂きたく何卒よろしくお願い申し上げます。

部門別売上高比率（2009年9月）

情報機器システム部門 売上高 2億円

コンデンサ・モジュール部門 売上高 53億円



電力機器システム部門

売上高 24億円

売上高
構成比率
67%

コンデンサ・モジュール部門

自動車産業は、エコカー減税や新型ハイブリッドカーの増産など話題があり、HEV、EV向けインバータ平滑用コンデンサの新規引き合いが増加しております。

電鉄車両用コンデンサは、国内新幹線の高速化にともなう部品の小型・軽量化のニーズに対応し、受注拡大を図ってまいりました。世界的な鉄道インフラ整備により、国内・海外ともにさらに需要は拡大するものと予測されます。これまで培った技術をもとに、新たな市場ニーズに適合した、高性能のフィルムコンデンサ、ならびに電気二重層コンデンサの開発を進めてまいります。

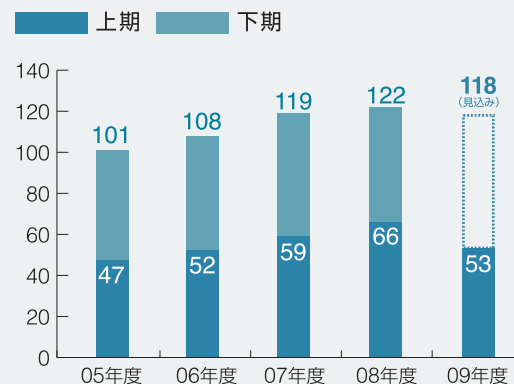


風力発電用
コンデンサ

電鉄車両用
コンデンサ

電気二重層コンデンサ
FARADCAP

コンデンサ・モジュール部門売上高 (単位:億円)



売上高
構成比率
31%

電力機器システム部門

省エネ・クリーンエネルギーなどの新規需要の動きはあるものの、工場建設、設備投資の低迷により電力機器需要も低調に推移し、「力率改善装置」「電力品質改善装置」の受注が減少いたしました。しかし、薬品、太陽電池、リチウムイオン電池など好調業種の工場増築にともなう「高圧・低圧進相コンデンサ設備」の引き合いも増加しており、今後もこの状況は続くものと予測されます。

下期も厳しい市場環境が見込まれますが、引き続き、受注拡大ならびに商品開発を進めてまいります。

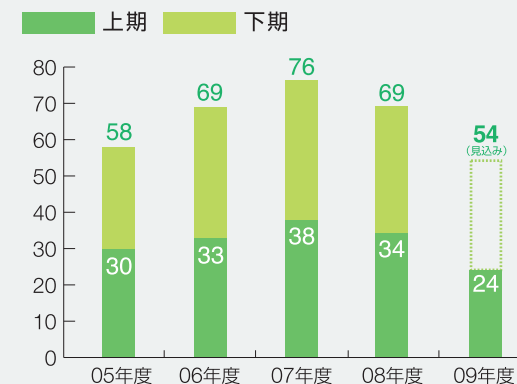


リアクトル内蔵
低圧進相コンデンサ

低圧乾式リアクトル

瞬時電圧低下補償装置

電力機器システム部門売上高 (単位:億円)



売上高
構成比率
2%

情報機器システム部門

今期は、「鉄道用表示装置」、「バス用表示装置」などの拡販活動の結果、売上高は前年同期比18%の増加となりました。

お客様のニーズである「薄型」「見やすい表示」に対応した表示装置を納入し、好評をいただいております。

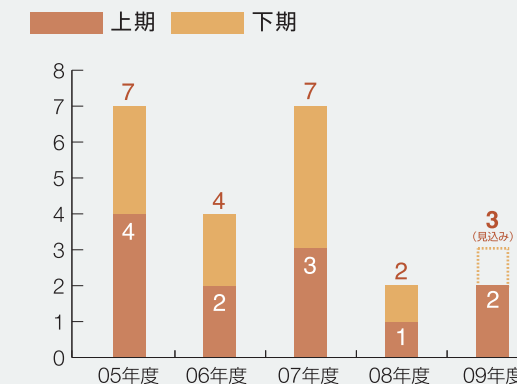
大型商談の端境期にありますが、今後も、当社の主力商品である「空港用表示装置」「鉄道用表示装置」「バス搭載の表示装置(行先・運賃・音声合成装置)」の営業活動強化を図ってまいります。



市販用表示装置

バス用表示装置

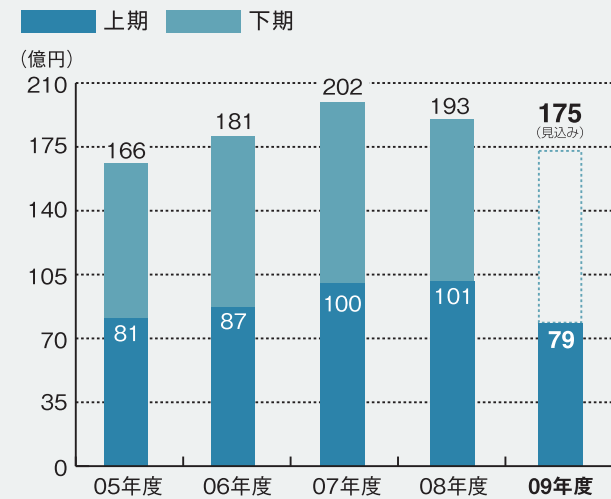
情報機器システム部門売上高 (単位:億円)



財務ハイライト(連結)

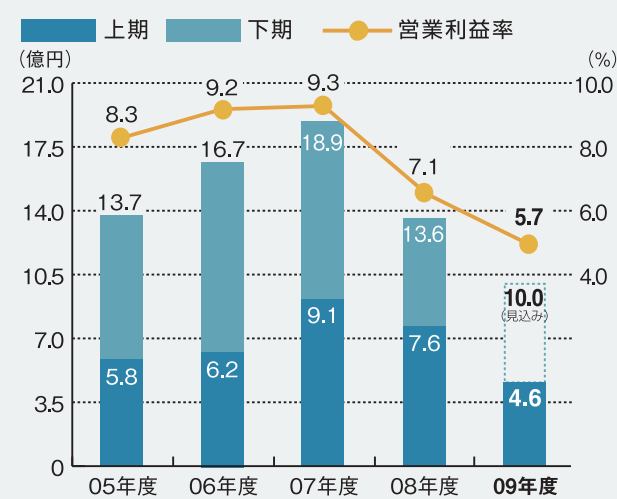
売上高

上期は前年比減収ながら、L字型回復の見込み



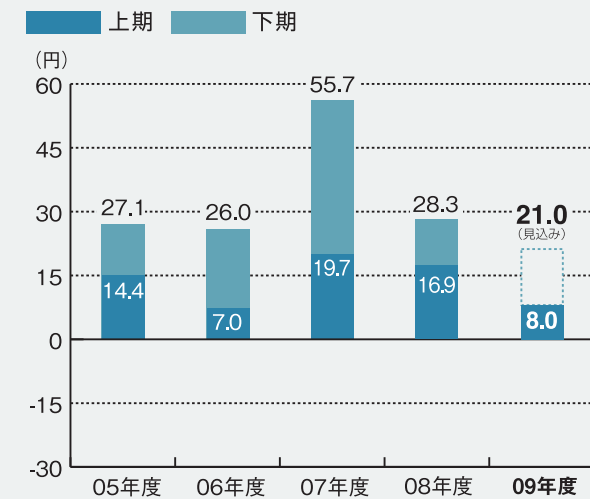
営業利益・営業利益率

減益ながら営業利益率5.7%確保



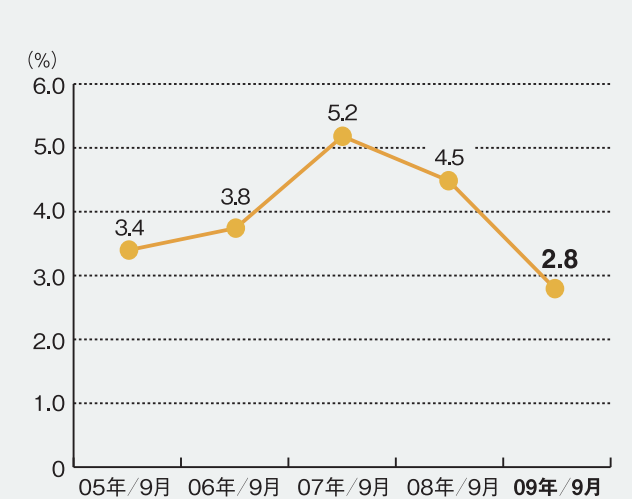
1株当たり利益(EPS)

通期では21.0円確保見込み



総資産経常利益率(ROA)

利益減をカバーできず2.8%に低下



POINT

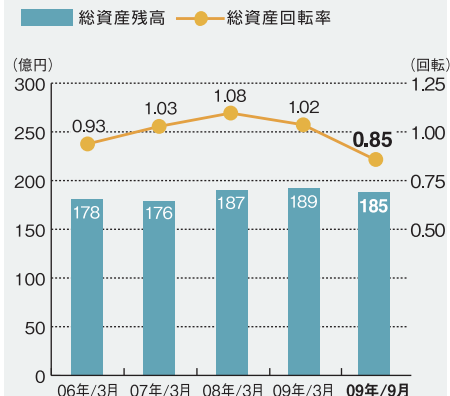
売上高は回復基調にあり

上期は減収ながら底打ち感あり。L字型回復基調に入りつつあります。

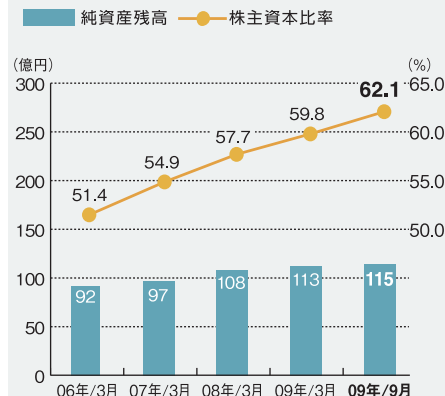
財務体質改善は進展

自己資本比率、有利子負債依存度は改善しております。積極的な設備投資により、将来の経営基盤拡充を指向。

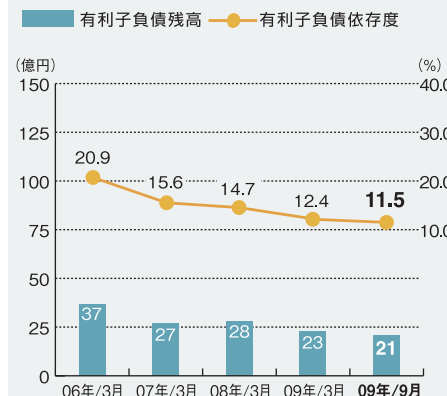
総資産残高・総資産回転率



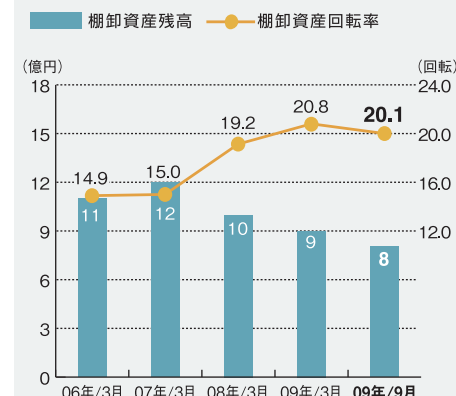
純資産残高・株主資本比率



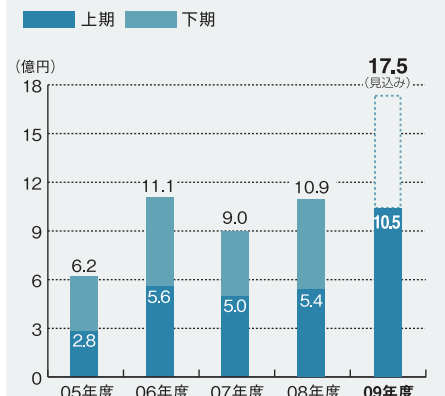
有利子負債残高・有利子負債依存度



棚卸資産残高・棚卸資産回転率



設備投資額



連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	第81期第2四半期 平成20年9月30日現在	第82期第2四半期 平成21年9月30日現在
資産の部		
流動資産	8,904	8,074
現金及び預金	3,334	3,708
受取手形・売掛金	4,223	3,146
棚卸資産	947	788
その他資産	400	432
貸倒引当金	△1	△1
固定資産	9,812	10,498
有形固定資産	8,519	9,257
建物及び構築物	2,131	2,025
機械装置及び運搬具	1,489	1,730
土地	4,405	4,404
建設仮勘定	291	843
その他	200	251
無形固定資産	65	47
投資その他の資産	1,227	1,194
投資有価証券	599	567
長期貸付金	33	21
その他	632	630
貸倒引当金	△37	△25
資産合計	18,716	18,573

POINT

活発な設備投資を実施中

手許流動性を原資とした設備投資を積極的に実施中。
債権流動化により資金効率の改善を進めております。

(注) 十百万円の位を切り捨てて表示しております。

科目	第81期第2四半期 平成20年9月30日現在	第82期第2四半期 平成21年9月30日現在
負債の部		
流動負債	4,776	3,615
買掛金	968	593
短期借入金	2,028	1,095
未払費用	1,073	1,098
未払法人税等	85	195
引当金	419	405
その他	200	226
固定負債	2,714	3,389
長期借入金	300	1,000
退職給付引当金	979	930
その他	1,434	1,459
負債合計	7,490	7,004
純資産の部		
株主資本	10,980	11,374
資本金	5,001	5,001
資本剰余金	3,302	3,306
利益剰余金	3,643	4,017
自己株式	△967	△952
評価・換算差額等	212	167
その他有価証券評価差額金	71	60
土地再評価差額金	859	859
為替換算調整勘定	△718	△753
少数株主持分	33	27
純資産合計	11,226	11,569
負債純資産合計	18,716	18,573

POINT

自己資本比率の増強

借入金の減少及び利益剰余金の増加により自己資本比率は62.1%(前期末比+2.3%)に改善しました。

(注) 十百万円の位を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	第81期第2四半期 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	第82期第2四半期 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで
売上高	10,096	7,938
売上原価	7,252	5,570
売上総利益	2,843	2,367
販売費及び一般管理費	2,087	1,911
営業利益	755	455
営業外収益	153	155
営業外費用	72	83
経常利益	837	528
特別損失	—	33
税金等調整前四半期純利益	837	495
法人税、住民税及び事業税	74	170
法人税等調整額	253	83
少数株主利益	4	0
四半期純利益	505	240

連結株主資本等変動計算書

第2四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算 差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成21年3月31日残高	5,001	3,302	3,882	△977	11,207	107	29	11,344
第2四半期連結累計期間中の変動額								
剰余金の配当			△104		△104			△104
四半期純利益			240		240			240
自己株式の取得				△2	△2			△2
自己株式の処分		4		28	33			33
株主資本以外の項目の第2四半期 連結累計期間中の変動額(純額)						59	△1	58
第2四半期連結累計期間中の変動額合計	—	4	135	25	166	59	△1	224
平成21年9月30日残高	5,001	3,306	4,017	△952	11,374	167	27	11,569

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	第81期第2四半期 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	第82期第2四半期 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,631	951
投資活動によるキャッシュ・フロー	△539	△1,044
財務活動によるキャッシュ・フロー	△498	△286
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7	7
現金及び現金同等物の増減額	586	△371
現金及び現金同等物の期首残高	2,747	3,980
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,334	3,608

POINT

営業キャッシュフローの減少

前年比にて利益が減少したため、営業キャッシュフローの減少を余儀なくされました。

投資キャッシュフローの増加

活発な設備投資により、投資キャッシュフローが増加しました。

(注) 十万円の位を切り捨てて表示しております。

個別貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	第81期第2四半期 平成20年9月30日現在	第82期第2四半期 平成21年9月30日現在
資産の部		
流動資産	8,103	7,336
現金及び預金	2,584	2,937
受取手形・売掛金	3,985	2,941
棚卸資産	274	233
その他資産	1,260	1,225
貸倒引当金	△1	△1
固定資産	8,733	9,293
有形固定資産	5,415	5,447
建物及び構築物	1,005	1,010
機械装置及び運搬具	185	183
土地	4,144	4,144
建設仮勘定	4	18
その他	75	90
無形固定資産	38	22
投資その他の資産	3,279	3,823
投資有価証券	596	564
長期貸付金	1,469	1,623
その他	1,688	2,033
貸倒引当金	△474	△398
資産合計	16,837	16,630

科目	第81期第2四半期 平成20年9月30日現在	第82期第2四半期 平成21年9月30日現在
負債の部		
流動負債	4,473	3,215
買掛金	1,447	1,127
短期借入金	1,900	900
未払費用	842	810
未払法人税等	36	151
引当金	187	150
その他	59	75
固定負債	1,898	2,603
長期借入金	300	1,000
退職給付引当金	164	163
その他	1,434	1,439
負債合計	6,372	5,818
純資産の部		
株主資本	9,534	9,892
資本金	5,001	5,001
資本剰余金	3,302	3,306
利益剰余金	2,197	2,535
自己株式	△967	△952
評価・換算差額等	930	920
その他有価証券評価差額金	71	60
土地再評価差額金	859	859
純資産合計	10,465	10,812
負債純資産合計	16,837	16,630

個別損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	第81期第2四半期 平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで	第82期第2四半期 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで
売上高	9,106	7,285
売上原価	6,868	5,452
売上総利益	2,238	1,833
販売費及び一般管理費	1,602	1,464
営業利益	635	368
営業外収益	117	138
営業外費用	62	77
経常利益	690	429
税引前四半期純利益	690	429
法人税、住民税及び事業税	17	134
法人税等調整額	269	62
四半期純利益	403	232

個別株主資本等変動計算書

第2四半期累計期間(平成21年4月1日から平成21年9月30日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算 差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成21年3月31日残高	5,001	3,302	2,407	△977	9,733	907	10,641
第2四半期累計期間中の変動額							
剰余金の配当			△104		△104		△104
四半期純利益			232		232		232
自己株式の取得				△2	△2		△2
自己株式の処分		4		28	33		33
株主資本以外の項目の第2四半期 累計期間中の変動額(純額)						12	12
第2四半期累計期間中の変動額合計	-	4	127	25	158	12	170
平成21年9月30日残高	5,001	3,306	2,535	△952	9,892	920	10,812

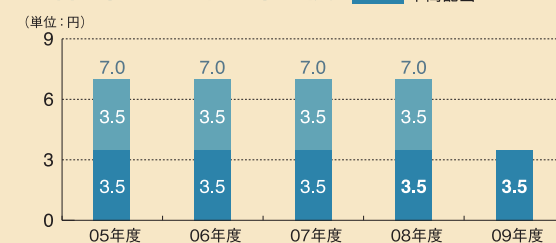
(注) 十万円の位を切り捨てて表示しております。

中間配当金 1株当たり3円50銭

当期の中間配当金は、1株当たり3円50銭とさせていただきます。

1. 中間配当金 1株当たり3円50銭
2. 支払対象者 平成21年9月30日最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者
3. 支払開始日 平成21年11月27日

1株当たりの配当実績



2009年9月30日現在

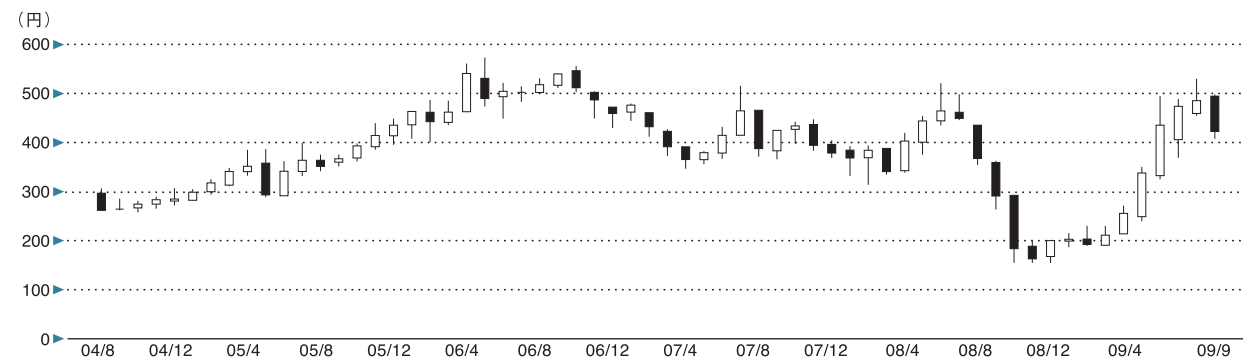
株式の状況

会社が発行する株式の総数	128,503,000株
発行済株式の総数	33,061,003株
当中間期末株主数	4,263名

大株主（上位10名）

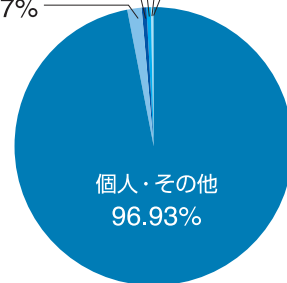
株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
三菱電機株式会社	6,980	21.1
ゴールドマンサックス インターナショナル	2,818	8.5
株式会社りそな銀行	1,299	3.9
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社	1,122	3.3
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社	1,057	3.1
株式会社みなと銀行	925	2.7
指月協友持株会	667	2.0
東京海上日動火災保険株式会社	565	1.7
株式会社ノーリツ	560	1.6
株式会社三菱東京UFJ銀行	431	1.3

株価チャート

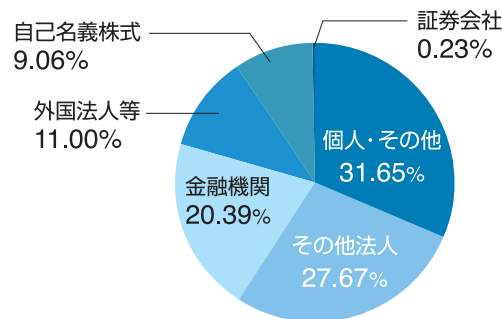


所有者別株主数分布状況

証券会社 0.42% 金融機関 0.38%
 外国法人等 0.68% 自己名義株式 0.02%
 その他法人 1.57%



所有者別株式数分布状況



会社概要

商号	株式会社指月電機製作所
英文名称	SHIZUKI ELECTRIC COMPANY INC.
本店所在地	〒662-0867 兵庫県西宮市大社町10番45号 TEL:0798-74-5821
ホームページ	http://www.shizuki.co.jp/
創業年月日	昭和14年3月10日
設立年月日	昭和22年9月1日
資本金	5,001,745,595円
グループ従業員数	1,270名
主要取扱業務	<ul style="list-style-type: none"> ●コンデンサ及び関連機器・装置 ●電力機器・装置 ●情報機器・装置 の製造販売
営業拠点	<ul style="list-style-type: none"> ●東京支社 ●東京支店／関西支店／中部支店 ●札幌営業所／仙台営業所／日立営業所 広島営業所／福岡営業所 ●マレーシア連絡事務所／韓国連絡事務所

生産子会社

社名	資本金	出資比率(%)
九州指月株式会社(福岡県)	490,000千円	100.0
秋田指月株式会社(秋田県)	300,000千円	100.0
岡山指月株式会社(岡山県)	100,000千円	100.0

販売・生産子会社

社名	資本金	出資比率(%)
アメリカンシヅキ株式会社 (米国 ネブラスカ州)	17,600千米ドル	100.0
指月獅子起(上海)貿易有限公司	250千米ドル	100.0
タイ指月電機株式会社(タイ バンコク)	33,000千バーツ	70.0

2009年9月30日現在

役員

取締役	※社外取締役
取締役会会長	梶川 泰彦
取締役	木佐木 正文
取締役	川本 十七生
取締役	池田 義範※
取締役	増田 幹登※

執行役	
代表執行役社長	梶川 泰彦
専務執行役	木佐木 正文
常務執行役	志方 正一
常務執行役	足達 信章
常務執行役	浦屋 昌吾
執行役	谷口 義裕
執行役	伊藤 薫
執行役	矢部 久博
執行役	小田 敦

